

PAM通信 コラム

2009年8月発行

<第29回>タイトル：夏に恒例の・・・

2007年、2008年と8月のコラムでは「霊」や「生まれ変わり」の話をテーマにしてきました。今年も例年に倣い暑い季節は不思議な話をテーマにしたいと思います。今回のテーマは超能力です。

1970年代に心理学の業界では超能力を科学的に検証しようとする実験による研究が行われました。それらの実験の1つで「テレパシー」を扱うものに“ganzfeld”と呼ばれる方法があります。この実験ではテレパシーの送信者と受信者を離れた部屋に配置し、送信者には写真やスライド、短いビデオ映像などを見てもらい、そのイメージを受信者に向けてテレパシーで送ってもらいます。受信者はヘッドホンから無意味なノイズを聞き、目にはピンポン球を半分に切った半球形のプラスチックをテープで留め（半分に切ったピンポン球を目に着けている写真はちょっと笑えます!）、何も見えず何も聞こえない環境におかれます。この、何も見えず何も聞こえない環境が ganzfeld と名前が付けられた理由で、ドイツ語で「全体野」を意味するそうです。この環境の中で受信者は心に浮かんだイメージを報告します。さらに受信者は提示される4つの回答例の中から正解と思う1つを選択します。選択された回答例が送信者が送ったものと同じか、送信者の送った内容と受信者が感じたイメージとの関連が強いと判断されると「当り」です。800回以上行われた一連の実験での「当り」の割合は38%ありました。偶然に当る確立は4択の回答形式なので25%になり、38%の正答率はとても高い数値です。

この結果からテレパシーは存在すると言えるのでしょうか？実はそうは言えません。科学的検証に重要なもう1つの要因である再現性が成立っていないからです。科学的に検証されたと言えるには、同じ実験環境なら何度行っても同じ結果が出なければなりません。しかし、“ganzfeld”の実験結果にはバラつきが多く再現性が確保されたとは言えないからです。

テレパシーが科学的に検証され、その仕組みがわかり誰もが使えるようになったらどうなるでしょうか？携帯電話も必要がなくなり、機器の操作が苦手な障害を持った人は便利になるでしょうか？障害者と介助者のコミュニケーションは言葉を使うことで発生する誤解がなくなりトラブルが減るでしょうか？これらは遠い将来であれば実現することなのでしょうか？その答えは不明です。

上記のことから、超能力は科学的には「否定はできないが、存在するとは言えない」となります・・・でも、興味は尽きません。そこで今年も霊の見える人、超能力の使える人を募集します、ご存知の方は事務局 Tまでご連絡を！



パ°-ソナルアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : pam@w7.dion.ne.jp 緊急時 : 090-1406-9367

